

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2020年
5月6日
第86号



シャクヤク (ポタン科)

今、第一圃場で、白花の一重、八重の2品種、大型の花が目を見えます。もう少ししたら、赤花の八重も咲き始めるでしょう。「立てば芍薬、座れば牡丹」に歌われるように、とても美しい花です。中国東北部、朝鮮半島原産で、生薬としては奈良時代に遣隋使により日本へ来ていますが、植物として渡来は平安時代と室町時代と諸説あります。薬用、鑑賞用に栽培される多年草草本です。名前は漢名の芍薬を音読みにしたことによります。薬用として適していると思われるのは、白花の八重の品種とされています。

根が生薬の芍薬 (シャクヤク) となり、西洋医学的には鎮痛鎮痙、漢方医学的には補血、調経を目的に、芍薬甘草湯、当帰芍薬散、葛根湯、小青竜湯など多くの漢方処方に配合される他、各種整腸薬、婦人病用薬、薬用酒などに配合されています。

ムベ (アケビ科)

自然植生区の北側、第一圃場のすぐ横のアケビ棚で、今、白色の反り返った花が見られます。地方によってはアケビとも称されますが、アケビとは異なり、別名のトキワアケビの名の通り常緑性であることと、果実が自然に割れないことが特徴です。日本では関東以西の温暖な地域に分布しています。

ムベの果実は、アケビ同様、食用にし、甘くて美味で、平安時代から宮中へ献上される習慣がありました。蔓はアケビと同じく強靱なので、椅子、各種の籠や細工物作りに利用されます。茎と根が生薬の野木瓜 (ヤモッカ) となり、民間薬として強心、利尿を目的に用います。また、果皮、果肉、種子や葉には、駆虫作用があるそうです。

今、こんな草木が
楽しめます！！